

千葉県版 不登校児童生徒の支援資料集



千葉県教育委員会

ま え が き

不登校児童生徒への支援については、学校や関係者において、様々な努力がなされてきたところですが、本県の不登校児童生徒数は、依然として高水準で推移しており、様々な悩みを抱えて学校に通えない児童生徒への支援が、早急に求められています。

不登校は、多様な要因や背景により、結果として不登校状態になっているというものであり、その行為を「問題行動」と判断せず、どの児童生徒にも起こり得るものとして、共感的理解と受容の姿勢を持って接することが重要です。また、100 人いれば 100 通りの状況が考えられることから、個々の児童生徒の状況把握に努め、一人一人に応じた支援を学校、家庭、関係機関が連携して、組織的・計画的に行っていく必要があります。

学校は、全ての児童生徒が安心して楽しく生活を送ることができる場でなければなりません。そのためには、児童生徒にとっての「心の居場所」をつくるとともに、充実感や達成感を味わえるようにすることが大切です。不登校児童生徒への支援に際しては、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することができるような支援を進めていく必要があります。

県教育委員会では、各学校が、児童生徒にとって安心して楽しく学ぶことができる魅力ある学校づくりや不登校児童生徒に対する効果的な支援を推進していくために、教育相談・不登校支援の専門的な教育機関である千葉県子どもと親のサポートセンターを中心に、不登校の未然防止、初期対応、自立支援等、様々な実践例を網羅的にまとめ、現場の教職員の不登校支援に関する道標となるような教職員向け支援資料集を作成いたしました。

本支援資料集が、各学校における魅力ある学校づくりの推進、不登校支援や支援体制の充実、そして、教職員の指導力向上の糧となり、不登校で悩む児童生徒が適切な支援・助言を受け、改善されていくことを心から願っています。

最後になりましたが、千葉県版不登校児童生徒の支援資料集の刊行に当たり、御尽力いただきました作成委員の皆様方に対し、厚く感謝申し上げます。

平成 30 年 3 月

千葉県教育委員会教育長 内藤 敏也

第Ⅰ章 長期欠席と不登校等の現状

- (1) 長期欠席と不登校について 1
- (2) 千葉県公立小・中学校の長期欠席・不登校の現状 1
- (3) 千葉県公立高等学校の長期欠席・不登校等の現状 4

第Ⅱ章 千葉県教育委員会の取組 6

第Ⅲ章 新たな不登校を生まないために

- 1 不登校の捉え方 11
 - (1) 不登校の要因と背景 11
 - (2) 要因別の関わりの重要性 12
 - (3) 新たな不登校を生まないために～2種類の不登校予防～ 13
- 2 魅力ある学校づくり 14
 - (1) 魅力ある学校とは 14
 - (2) 「居場所づくり」と「絆づくり」 15
- 3 教職員として 16
- 4 魅力ある学級づくり 18
 - (1) 児童生徒理解の深化 18
 - (2) 好ましい人間関係を育てる 19
 - (3) 規範意識を育てる 20
 - (4) 開かれた学級経営 21
- 5 わかる授業を通して 23
 - (1) 生徒指導の機能を生かした「わかる授業」づくり 23
 - (2) ユニバーサルデザインの視点を生かした「わかる授業」づくり 26
- 6 校内体制 29
- 7 保護者との連携について 33
 - (1) 保護者との協働～日頃からの信頼関係づくり～ 33
 - (2) 保護者支援の充実～家庭教育への支援～ 35
- 8 学校間・学校種間の連携 36
 - (1) 連携の重要性 36
 - (2) 小学校と中学校の連携 37
 - (3) 中学校と高等学校・特別支援学校等の連携 41
 - (4) その他の連携 43
- 9 安心安全な学校づくり 45

第Ⅳ～Ⅴ章の構成 49

第Ⅳ章 初期対応（早期発見・早期対応）

- 1 早期発見と早期対応のために 50
 - (1) 早期発見と早期対応のための具体的な方法 50
 - (2) 教育相談をより充実したものにするために 52
- 2 初期対応の重要性 53

3 初期対応のポイント	54
(1) 初期対応の流れ	54
(2) 効果的な支援に不可欠なアセスメント	54
(3) 組織的対応の必要性	55
(4) 家庭への支援	56
(5) 養護教諭の果たす役割	58
(6) スクールカウンセラー（SC）の活用	59
(7) スクールソーシャルワーカー（SSW）の活用	59
(8) 「月例報告」の活用	60
(9) 「児童生徒理解・教育支援シート」の活用	62

第V章 自立支援

1 不登校児童生徒への支援の視点	68
2 様々なケースへの対応と取組	69
(1) 無気力	70
(2) いじめ	71
(3) 非行傾向	74
(4) 発達障害	75
(5)-1 家庭に係る要因（経済的な問題）	78
(5)-2 家庭に係る要因（児童虐待）	79
(6) こころの病気が疑われる場合	81
(7) ひきこもり傾向	84
(8) 自殺をほのめかした場合	85
(9) 意図的な欠席	86
(10) 居所不明	87
(11) 要因が複数考えられるケース	90
3 再登校について	94
(1) 再登校へ向けて	94
(2) 再登校前日までの準備	96
(3) 再登校当日の対応	96
4 不登校児童生徒の居場所づくり	98
(1) 別室登校	98
(2) 不登校児童生徒支援推進校における取組	99
(3) 教育支援センター（適応指導教室）の活用	101
(4) その他の居場所	105
5 義務教育修了後の多様な進路選択	106
(1) 特色ある県立学校	106
(2) 広域通信制高等学校とサポート校	109
(3) 高等学校卒業程度認定試験（旧大学入学資格検定）	110
(4) 転退学時の対応	111
(5) 就労への支援	112
6 社会的自立への道	116
(1) 義務教育修了後進学・就職していない子どもへの支援	116
(2) NPO等との連携	117

資料編	123
1 児童生徒理解・教育支援シート（試案）	124
2 見立てシート	126
3 子どもを理解するための気になる児童生徒チェックシート	127
4 月例報告（例）	129
5 関係機関等一覧	132
6 平成29年度市町村が設置する教育支援センター（適応指導教室）一覧	136
7 主な参考資料・文献一覧	137

コラム一覧

コラム 「長期欠席と不登校」	10
コラム 「マズローの欲求階層説」	22
コラム 「エリクソンの発達段階」	44
コラム 「学校における有効なケース会議の持ち方」	65
コラム 「学校とカウンセラーの連携」	67
コラム 「不登校児の不安とうつと」	82
コラム 「1年以上居所不明児童生徒について」	89
コラム 「地域若者サポートステーションの紹介」	114
コラム 「フリースクールとは」	119
コラム 「学校教育相談の充実に向けて～校内体制の在り方について～」	120

※ 本資料集では小・中学校の表記に、「義務教育学校」が含まれます。